

はくぶつかんネット 第72号

令和3年11月～令和4年3月 発行：宜野湾市立博物館

察度生誕700年記念関連イベントが終了しました！



令和3年度もあとわずか、もうすぐ新しい年度がやってきます。依然新型コロナウイルスによって生活が制限される中ではありますが、皆さまの中には、新生活にわくわくしている方も多いかと思います。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

さて、宜野湾市立博物館では、昨年10月から行ってきた察度生誕700年を記念したイベントが、3月4日（金）に終了しました。このイベントは、察度生誕700年を記念した横断幕の設置から始まり、館内でのパネル展や市民講座のほか、市内小中学校11校や市民図書館で移動パネル展を行ってきました。ご協力をいただきました、市内小中学校、市民図書館の皆さまに、お礼申し上げます。

令和4年度は、宜野湾市の市制60周年、沖縄県本土復帰50周年を迎える節目の年になります。当館では、これを記念して様々な企画を予定しておりますので、今後の活動にも目を離さぬよう、要チェックをお願いします！

この横断幕は、市役所前や大謝名交差点前など、市内4か所に設置したよ♪



横断幕の様子（市役所前）



館内パネル展の様子



市民講座の様子

察度って「羽衣伝説」や昔の沖縄を引っ張っていたすごい王様だったんだ…

波之上護国寺の周りも察度にまつわる場所だったのか…



移動パネル展の様子

「宜野湾はごろも祭り」などで知っていた「はごろも伝説」は、察度に関係してるんだ！



市民図書館での様子



令和3年度 琉球大学附属図書館・琉球大学博物館（風樹館）企画展

琉球大学資料にみる宜野湾

やまい

～病と祈い～

琉球大学附属図書館・琉球大学博物館（風樹館）は、毎年秋に、所蔵する史資料を元に県内各地の図書館や博物館等と共同で行っている企画展があります。実はこの企画展、当館での開催は昨年度行われる予定だったのですが、新型コロナの影響により開催を断念。「今年度こそは！」と思い、開催できるか怪しい雰囲気もありましたが、何とか2021（令和3）年10月23日（土）～11月21日（日）の期間で開催することが出来ました。

今回の企画展は、当館所在地の宜野湾に関する史資料、湧き水が豊富なことを示す水棲動物や希少な水草の紹介をしつつ、宜野湾にゆかりのある人物として、国語学者・奥里将建^{おくざしやうけん}【1888（明治21）年～1963（昭和38）年】も取り上げられました。その他にも、ハンセン病やマラリアなどの感染症に関する史資料を紹介し、現在進行形である新型コロナのように、過去の感染症についても紹介しました。病についての紹介の他、普天満宮などに関する史資料から宜野湾における祈りにも触れられました。また、アンケートに答えた方には、限定のステッカーやクリアファイルなどもあり、見どころ満載の展示会となりました。

期間中、601名の観覧者が訪れ、「病と沖縄に関する資料がたくさんあっておどろきました」、「多角的な宜野湾の民俗が知れて良かった」、「身近にあるカーの^{カヌー}のことを写真で知り、現地に足を運んでみたいと思った」、「マラリアの展示は数多く見ましたが、蚊の生体展示は初めて見てビックリしました」といった感想を聞くことができました。コロナ禍の中、感染対策に協力していただきながら、ご観覧くださった皆さん、ありがとうございました。



「琉球大学附属図書館」で検索すると、展示や講座の解説動画を見ることができるケロ♪



❖展示の他に、関連事業として、市民講座（2回）も行われました☆

10/31（日） 「沖縄のマラリア史からの教訓 ～コロナ禍に伝えたいこと～」 講師：斉藤 美加 先生 18名

11/ 7（日） 「沖縄における災厄をめぐる民俗」 講師：赤嶺 政信 先生 24名

※新型コロナウイルス予防のため、定員を少なくして行いました。

市民講座の様子



「沖縄のマラリア史からの教訓 ～コロナ禍に伝えたいこと～」

「沖縄における災厄をめぐる民俗」

第29回 ギのわんの文化財図画作品展



受賞者のみなさま おめでとうございます

当館では、12月4日（土）から26日（日）まで、第29回 ギのわんの文化財図画作品展を開催しました。市内の小学3年生から中学3年生を対象に、宜野湾市の文化財に親しみを持ってもらうことを目的として毎年開催しています。12月4日（土）には、博物館ロビーで表彰式が行われ、小学校中学年（3・4年生）の部、小学校高学年（5・6年生）の部、中学校の部でそれぞれ教育長賞、金賞、銀賞、銅賞に選ばれた受賞者のみなさん及び、保護者の方々にご参加いただきました。



教育長あいさつ



表彰式の
様子

展示会

見学の様子



記念撮影

地域との共同企画展 ぎのわんの“字”展

ウチカイ美らと神山

平成19年度から、市内の各字にスポットを当てて展示を行う「ぎのわんの“字”展」は、今年で14回目の開催となりました。

今回は、本市の中央に位置する字神山を特集します！戦前の神山の集落は、家並みが整然としていて美しかったことから、「ウチカイ美らさ」と呼ばれていたそうです。しかし、そのような美しい集落も、沖縄戦を境に米軍に接收され、普天間飛行場に消えてしまいました。今ではなかなか見ることのできない神山に残された文化財や、旧集落の発掘調査の成果、そして地元の先輩方からの聞き取りによって、戦前～戦後にかけての字神山での人びとのくらしや習俗、歴史や文化を紹介しています！

博物館ホームページでも、企画展の内容を徐々に公開する予定です。実物資料は、博物館でしか見ることはできませんが、ホームページでしか見ることのできない動画の編集も予定していますので、ご参観いただいた方も、ぜひホームページをチェックしてみてください♪



字神山の先祖と
関係の深い拝所、トウン



基地造成で埋没した
ムラの産泉、クシヌカー

普天間飛行場に残っている
神山の文化財を、字神山郷友会
の方々に教えて頂きました！



フェンスに阻まれた
かつての聖地、
カンミンヌ御嶽



旧神山集落の遺物
200点以上！



神山の方々から
寄贈された民具



新しい展示ケースに並べた
沖縄関係資料の数々！

展示はこんな
カンジです！



5月29日(日)まで！



神山の先輩方に
インタビューしました！



郷友会コーナー！

入場無料だよ！

第22期 わらば～体験じゅく



友達 100人出来たかな？

「わらば～体験じゅく」は、市内在住の小学5・6年生を対象に、日常生活ではあまり関わることの少ない宜野湾を中心とした郷土の自然や文化など、体験を通して学習します。今年度も、新型コロナウイルスの影響で、日程や内容の変更などがありましたが、児童が協力して体験学習を行い、他校、異学年の生徒同士で交流し、協力することの大切さを学びました♪

第1回 7月17日（土）

開校式・博物館見学と昔の道具体験
講師：博物館職員



開校式を行った後、博物館見学と昔の道具体験を行いました。

第2回 10月2日（土）

漆喰シーサーをつくろう！
講師：わにや耕房 比嘉 和行さん



漆喰と赤瓦を使って、自分だけのオリジナルシーサーをつくりました。

第3回 10月23日（土）

沖縄の石と化石の不思議に迫ろう！
講師：沖縄県立博物館・美術館 宇佐美 賢さん



琉球石灰岩を観察して削り、石の中にある化石を探しました。

第6回 11月27日（土）

喜友名のシーサーめぐり
講師：博物館職員



喜友名地区で、市指定文化財の「喜友名の石獅子群」を探しながら、クイズラリーを楽しみました。

第7回 12月18日（土）

漆の技法体験
講師：漆実験工房のみなさん



沖縄の伝統工芸である琉球漆器について職人さんから学び、実際に技（沈金技法）を体験しました。

第8回 1月29日（土）

木の実を使って笛をつくろう！
講師：宮城 邦治さん



自然にある木の実を使って笛を作り、吹いてみたり、指人形にしたりして楽しみました。

第9回 2月19日（土）

田イモの植付けに挑戦！
講師：田イモ農家 宮城 徳彦さん



大山の畑で、宜野湾市の特産品「田イモ」の植付けに挑戦しました。
※11月に中止となっていました、収穫も中止となり、急きょ農家の方に無理を言って実現しました！

第10回 3月19日（土）

葉脈スタンプカードづくり・閉校式
講師：博物館職員



身近な植物の葉脈スタンプを記念カードとしてつくりました。その後、閉校式を行いました。教育長より、全員に「修了証書」と皆出席者11名に「わらば～名人認定証」が授与されました！

中止となった体験



「ウシのお世話をしてみよう！」
「田イモの収穫に挑戦！」

▼修了証書を持って記念撮影！



博物館市民講座を振り返って

令和3年度の博物館市民講座は、新型コロナの影響により、何回か講座の延期を行い、皆さまにはご不便をおかけしましたが、無事に室内講座を9回、野外講座を6回、合計15回の講座を開催することができました。今年度は累計で314名の方に受講していただきました。誠にありがとうございました！

次年度は、市制60周年などの節目でもあることから、様々な講座を予定しております。どうぞご期待ください！

第1回：6/28（日）「ぶらっと博物館めぐり ～ひめゆり平和祈念資料館～」
講師：仲田 晃子（ひめゆり平和祈念資料館 解説員）



令和3年4月にリニューアルしたひめゆり平和祈念資料館で、平和講話や戦争を知らない世代を意識して再構成された展示を通して、戦争の悲惨さや、平和について学びました。

第2回：10/10（日）「沖縄のホタルとホタルあそび」
講師：佐々木 健志（琉球大学博物館（風樹館）助教）



沖縄のホタルの生態を学んだ後、ホタルを入れるための“ホタル提灯”を作りました。森川公園での観察会では、ホタルを見ることができ、受講者から好評でした。

第3回：10/17（日）「沖縄の戦争遺跡を知ることで分ること ～文化財調査で見てきたもの～」
講師：山本 正昭（沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員）



沖縄の戦争遺跡は、太平洋戦争以前に起こった戦争や沖縄戦を伝える重要な遺跡であり、今後の後世への継承と、活用が重要であることを講演していただきました。

第4回：10/24（日）「西普天間に残るイシジャーの地理観察」
講師：上原 富二男（沖縄大学 名誉教授）



西普天間に残るイシジャーを、実際に散策しました。険しい岩道を歩きましたが、宜野湾市にも自然が豊かで珍しい地形があることを感じることができました。

第5回：10/31（日）「沖縄のマリアア史からの教訓～コロナ禍に伝えたいこと～」
講師：斉藤 美加（琉球大学医学研究科 助教）



琉球大学企画展開連講座の第1弾。沖縄県内、特に八重山でのマリアアの歴史から、コロナ禍で科学的根拠に基づく対策をとる重要性などを講演していただきました。

第6回：11/7（日）「沖縄における災厄をめぐる民俗」
講師：赤嶺 政信（琉球大学 名誉教授）



琉球大学企画展開連講座の第2弾。沖縄の悪疫払いに関する民俗には、悪疫を「恐れる」だけではなく、「受け入れる」という側面があることなどを紹介していただきました。

第7回：11/14（日）「琉球の測量術と印部石のナゾ」
講師：安里 進（沖縄県立芸術大学 名誉教授）



印部石には、中国やフランスから取り入れた技術を上回る精度の測量技術があり、後世に残していく必要があることを、模型などを用いて説明していただきました。

第8回：11/28（日）「野球を通して学んだこと」
講師：島袋 洋奨（興南高等学校野球部 副部長）



甲子園春夏連覇など、現在に至るまでを振り返り、野球を通して実現したい目標を設定すること、その目標に全力で取り組むことの重要性などを講演していただきました。

第9回：12/5（日）「伝承から解き明かす察度王の真実」
講師：伊敷 賢（琉球歴史伝承研究所 代表）



察度生誕700年記念関連講座の第1弾。歴史書には書かれていない「生の歴史」である伝承研究から、察度の人物像や足跡などを講演していただきました。

第10回：12/12（日）「はごろも伝説・察度の足跡を辿る～首里・那覇～」
講師：宜野湾市文化財ガイドの会「察度の会」



察度生誕700年記念関連講座の第2弾。察度にゆかりのある文化財を、首里城周辺や波之上護国寺を中心に、4名のガイドの方にそれぞれ説明していただきました。

第11回：2/13（日）「琉球藍の話」

講師：大湾 ゆかり（沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員）



沖縄の伝統藍染織について、素材とする植物の特徴や製藍技法、換金作物であることによる時代背景の変化と人々の暮らしについて、講演していただきました。

第12回：2/27（日）「歴史の道～中頭方西海道と宜野湾並松街道～」

講師：平敷 兼哉（市立博物館 館長）



首里から各間切を結ぶ宿道である「中頭方西海道」から、普天満宮へと続く「宜野湾並松街道」を、バスでめぐること、当時の様子に思いを馳せました。

第13回：3/6（日）「基地内に残る文化財」

講師：仲村 健（宜野湾市文化課 文化財整備係長）



普天間飛行場やキャンプ瑞慶覧に残る文化財を中心に、基地内には戦前の人々の営みが多数残されており、市史と発掘調査の擦り合わせの重要性を講演していただきました。

第14回：3/13（日）「御殿墓めぐり」

講師：伊藤 圭（市立博物館 学芸係長）



我如古にある令和3年2月に史跡に指定された本部御殿墓をはじめ、浦添市、那覇市、南風原町に残る御殿墓を時代ごとの造りの変化などの解説を交えて、見学しました。

第15回：3/27（日）「石器が語る沖縄の歴史」

講師：大堀 皓平（沖縄県教育庁文化財課 主任専門員）



石器から見える旧石器時代～近代までの沖縄の人々の暮らしと周辺情勢の変化を、周辺地域との比較や、石材の材質や形状の変化から、紹介していただきました。

今年度も新型コロナにより開催日程が不安定な中、事前に準備をし、すばらしい講座を行ってくださった講師の方々には、感謝申し上げます！

令和4度も様々な講座を予定しておりますので、お楽しみに☆

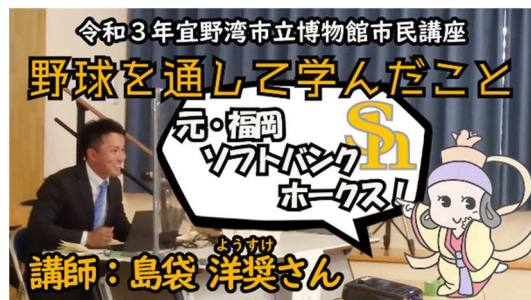


コロナ禍での市民講座について

新型コロナによる感染症の拡大を防止するため、令和2年度より受講定員を減らすなどの制限を設けており、博物館で様々な学びを希望されている皆さまには、大変ご迷惑をおかけしております。特に野外講座は、従来から人気がある上に受講定員を10～15名に設定していることから、受付初日の午前中には定員に達することが殆どで、せっかくの講座を多くの方に受講していただけない状況が続いています。

そこで、今年度は、講座の内容を撮影し、博物館のホームページで公開する試みを始めています。スマートフォンをお持ちの方は、右下のQRコードを読み取っていただくと、令和3年度の市民講座の動画を公開しているページを開くことができます。

動画は、令和4年3月1日現在で4件公開中です。講座によっては、公開できないものがあるほか、編集に時間がかかりなかなかアップできないものもありますが、ご了承ください。



▲公開している動画のタイトル



チェックしてね♪

◀ 市民講座の動画視聴ページ



社会科見学・出前講座の様子

社会科見学

市内外の小学校から社会科見学にお越しいただき、誠にありがとうございました。今年度も、一年を通してコロナの感染拡大がおさまらず、例年通りの参加校数とはなりませんでした。が、8校（854人）の児童が訪れ、今と昔の暮らしの移り変わりについて学びました。



社会科見学では、展示室の解説に加えて博物館職員指導のもと、実際に昔の道具を使用した体験学習も行っています。

出前講座

市内の学校を対象に、博物館への移動手段が確保できない場合等は、博物館職員が学校へ出向き「昔の道具と暮らし」「まちの人たちがうけ継ぐもの・行事」「宜野湾市の移り変わり」等について出前講座（道具体験）を行っており、今年度は15校（1,376人）で行いました。



学校の社会科見学や出前講座は、事前に打ち合わせが必要となりますので、約1カ月前までにはお問合せ下さいませよう、よろしくお願いします。





新しい展示ケースが完成しました！



企画展示室に新しい展示ケースが完成しました。横 7.8m、高さ 2.7mの壁一面の大きなケースです。展示出来る資料の幅も広がり、より多くの重要な文化財を安全に楽しんでもいただけるようになりました。

新しい展示ケースが展示物の魅力をどのように引き出してくれるのか、これからの企画展にご期待下さい。

博物館2階「研究室」の貸出しを始めます！

サークル活動や講座の開催、仕事の打ち合わせなどにぜひ、ご利用ください♪



2022年4月1日（金）よりお申し込み開始！
5月9日（月）よりご利用いただけます！

室料：600 円／1時間
冷房使用料：300 円／1時間



ご利用時間：午前9時半～午後4時半まで

- ・火曜日（休館日）以外の平日か、博物館事業のない土日に貸出しできます。
- ・ご利用に際しては、その7日前までに、「宜野湾市立博物館使用許可申請書」を窓口にご提出いただき、許可を受けてください。
- ・詳しくは、博物館のホームページをご確認ください。



ご希望や、ご不明な点等ありましたら、博物館にお問い合わせください。
申請様式は、ホームページからダウンロードできるように準備する予定です♪



市史だより がちまやあ

Gači-majaa



はくぶつかんネット第70号、第71号とも、宜野湾市内の小学校について取り上げてきましたが、今回の「がちまやあ」では、昭和初期頃の先生、生徒が着ている服や身の回りの物について取り上げます。約百年の間に服装は、どのように変わったのでしょうか。その違いについて、みていきましょう。



今、昔ファッション観察《修学旅行編》

下の集合写真をご覧ください。昭和初期の修学旅行の様子が伝わる貴重なワンショットです。写っている生徒や先生、現在と大きく違っていることが分かります。さあ！今と何がどう違うのかみなさんも一緒に探してみましよう！



色々観察すると
おもしろいよ！
校舎も今とは違うよ。

〈風呂敷〉

風呂敷の中には、修学旅行に必要な荷物が入っています。現在の、リュックやランドセルと同じ役目を果たしています。

〈学帽〉

日本初の学生帽は開成高校が1873（明治6）年に制定しています。その後、1886（明治19）年に東京大学が正式に制服と学帽が制帽として制定され、全国に広がっていきます。しかし、洋服が高価だったため、着物と袴姿に様式の帽子を合わせるが多かったようです。



〈パナマ帽〉

パナマ草の葉で作られる夏用のつばのついた帽子。戦前は紳士用の正装として被られました。

〈クバガサ〉

クバの若葉で作った笠のことで、日笠と雨笠があるよ。今の帽子や傘と役割は一緒です。



修学旅行（金武小学校）1932（昭和7）年 『写真集「ぎのわん」』より

現代の修学旅行は、飛行機やバスなどに乗り移動しますが、この頃の修学旅行はほとんどが徒歩でした。しかも上記の写真では寝具・炊飯道具を担いで歩いて行ったと記録が残っています。ということは、金武まで歩いたということになりますね！

ちなみに、宜野湾から
金武までは約35キロだよ！

この集合写真は、金武小学校前で撮影されています。当時は大人数を宿泊させる施設はないので、みんなで小学校校舎にお泊りしました。



今、昔ファッション観察《卒業式編》

下の写真は1937(昭和12)年の宜野湾尋常小学校の集合写真です。卒業式の装いでしょうか、女子生徒のほとんどが洋服を着てスカートをはいています。前ページの写真と何が違うのでしょうか！また現在とどう違うのでしょうか！

〈洋服とスカート〉

宜野湾市内で洋装が普及し始めるのは大正期からですが、ズボン・ワイシャツ・ワンピースが普及し始めるのは昭和初期頃からになります。どちらかというと、ある程度、裕福な中流以上の人たちに普及していたようです。

当時は、こういった洋服は手作りで縫ってもらうことが多く、この写真ではほぼ全員が洋服と靴で揃っている様子から、わが子の為に申し合わせて縫い上げたのではないかと思われます。



〈詰襟〉

詰襟は、明治期に学習院や東京帝国大学で詰襟の制服が導入されたことで、全国に広まっていきました。しかし、洋服が高価だったため普及には時間がかかりました。近代化が進み洋服が普及すると、学生帽と学生服は学生・生徒の象徴として定着していきます。



〈蝶ネクタイ〉

初めて日本にネクタイを持ち込んだのは、1851年で、通訳などで日米の架橋となったジョン万次郎(1827~1898年)と言われています。大正末期ごろには、服が一般市民に普及するに伴い、ネクタイもファッションの一部として取り入れられるようになりました。



宜野湾尋常高等小学校の生徒たち 1937(昭和12)年 『写真集「ぎのわん」』より

〈くつ〉

はきもの げた そうり くつ
履物には下駄・草履・靴がありましたが、
日常の生活は素足でした。

宜野湾市の衣の主流は琉装から洋装へと変わりますが、洋装が本流となるのは戦後からです。モンペは役所からの奨励もあり、昭和12年頃から学生を中心に広がりました。他にもズボン、ワイシャツ、ワンピースが中流以上の人たちに普及していきました。学生服は百年ほど前は自由で、夏は男女とも普段着に着ている芭蕉衣(リリキ・リリキ)、冬は木綿衣でした。現在は市内の公立小学校、私立を含めた学校では10校のうち1校(大山小、カトリック小)、中学校5校全部、高校4校全部に制服が定められています。

衣服については、『宜野湾市史第5巻 民俗』に紹介されているよ！



みなさんは、昔と今のファッションの違いをいくつ発見できたかな？



令和3年度の博物館活動を振り返って

宜野湾市立博物館、ご利用の皆さま、お世話になっております。日頃から当館をご利用いただき、誠にありがとうございます。

さて、令和3年度の市立博物館は、昨年度に続き、新型コロナの影響を受けて、休館による企画展の日程変更や市民講座、わらば〜体験じゅくの募集定員を減員等のコロナ対策を図りながら運営してまいりました。ご利用者の皆さまには、ご心配とご不自由をおかけしまして申し訳ございません。また、コロナ対策にご理解、ご協力いただき、誠に感謝申し上げます。

このようなコロナ禍の中、企画展や市民講座も計画した取組みは、全て実施することができました。また、小学校の社会科見学や出前講座も昨年度よりも増えつつあり、利用者もコロナへの対応が窺えました。

企画展では、2021年は宜野湾市の郷土の偉人の一人、察度の生誕700年にあたり、市内4カ所に察度生誕700年の横断幕設置や、市立博物館、市民図書館、市内小中学校でパネル展を開催し、察度の功績への理解につとめました。ご協力くださいました学校関係者の皆さまに感謝申し上げます。

小学校に関しては、宜野湾小学校が2021年に創立140周年を迎えました。小学校では、児童にも地域のことを学びながら創立記念を祝うことを目的に、先生方や児童向けに校区内の歴史や文化、自然などの特別授業を博物館へ依頼し、館では授業や地域巡見を行ってまいりました。受講する先生方や子ども達の真剣な眼差しがとても印象的でした。この小学校への対応の甲斐もあって、小学校から感謝状をいただきました。地域理解を目的とした博物館の取組みが評価されたことに、この場をお借りして宜野湾小学校へ感謝申し上げます。

結びに令和4年度は、宜野湾市市制施行60周年、沖縄県本土復帰50周年を迎えます。博物館では、これを記念した企画展や講座等を計画しております。また、博物館研究室の貸室も始まります。新型コロナの収まりが未だ見えず、皆さまにはご利用に際して不自由をおかけいたしますが、これからも本市の歴史・文化を楽しみながら学べる宜野湾市立博物館をご利用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

宜野湾市立博物館

館長 平敷 兼哉



宜野湾小学校から感謝状の贈呈を受けました！

ありがとうございました！

博物館友の会、会員募集！

「宜野湾市立博物館友の会」は、博物館が行う活動の支援を通して宜野湾市の歴史や文化を学びながら、会員相互の親睦を深めることを目的とした会です。また、会員向けの企画展の展示解説会やサークル活動、博物館事業へのサポートも行っています。歴史や文化、自然などに興味のある方、市内市外、年齢、性別は問いません！多くの方のご入会をお待ちしています。

会費 普通会员（一般）：年額1000円 準会員（大学生・小中高生）：年額500円
家族会員（普通会员2人目から）：500円

申込先 宜野湾市立博物館



▲博物館事業（わらば〜体験じゅく）のサポート

